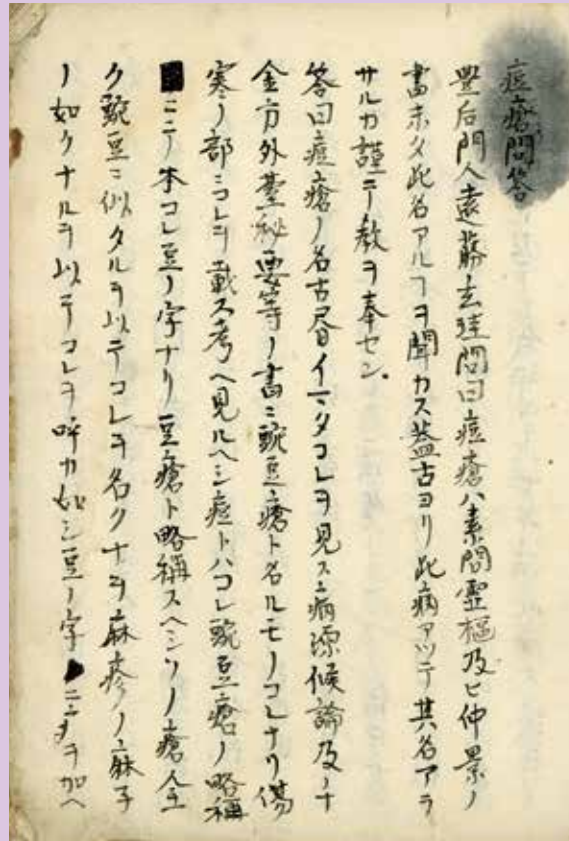


春秋彩

Shunjusai

vol.55

熊本県立大学広報誌

2021
Autumn

(琴山先生)痘瘡問答

再春館(熊本藩の医学学校)創設の立役者であった見朴を父に持つ村井琴山(椿寿、大年、庵、1733-1815)は、若き日に京都遊学して古方医(古代中国の医書に基づき、症候を診て処方をする医師)吉益東洞に師事、その後帰郷して藩医となった。

西日本一の東洞門弟と称された力量と名声は九州中に轟いたようで、天明4年(1784)5月に、瀕死の状態にあった長崎奉行土屋帯刀守直の治療に呼ばれたほどであった。

さて、天明8年(1788)5月晦日の奥書を有する当写本の内容は、豊後の門人遠藤玄圭が発した天然痘(痘瘡、疱瘡)に係る16の質問に、琴山が応答した問答集となっている。天然痘の名称、原理、性質、症状、

具体的な治療法、民間療法、慣習的な対処法、さらには痘瘡神の姿形という難題に至るまで、経験談や伝聞を交えつつ、一貫して古方派の立場から縦横に回答したものである。

なお、嘉永2年(1849)にオランダ商館医モーニケ(Otto Gottlieb Johann Mohnike)が渡来し、希望する藩や個人に牛痘法の伝習と痘苗の分与を行ったが、熊本藩はこれに関与せず、種痘を本格的に導入する明治6年(1873)まで、領内(県内)の治療は古方による医療が主流であった。つまり、本書から窺い知れるのは、近世後期から明治初年頃の熊本地域で権威的であった天然痘観と治療の実情なのである。

解説:文学部日本語日本文学科 准教授 大島明秀



CONTENTS

学長あいさつ	2
特集 熊本県立大学の大学院	3
活躍する卒業生	7
地域連携	8
研究活動紹介	9
国際交流	10
大学の動き	11
後援会だより	13
活き活き元気種	14
おすすめの一冊・未来基金・人事情報	15
熊本県立大学アーカイブズ	16

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学
Prefectural University of Kumamoto

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
〒862-8502 (住所記載不要)
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行
FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学

〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号
TEL 096 (383) 2929 (代)
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>



熊本県立大学長
半藤 英明
Hando Hideaki

自由は不自由のなかに

自由とは何か。現代社会は今、その確信的な答えを必要としているように思う。それは、概念規定の問題ではなく、どのような視野で捉えるべきかという問題意識の行く先として重要だということである。

世の自由は、自由としてのみ存在しているのではない。自由は不自由、または、束縛、拘束などと対になる概念であり、その両者は並行的、一体的に把握されるべきものであって、決して懸隔するものではない。また、自由は社会の原則ではない。人類の社会のどこに完全なる自由が存在するだろうか。人が集団で暮らす社会は無秩序では成立し得ないから、社会が成立した時点では既に一定の制限がかかる。それを不自由と呼ぶならば、社会とは本質的に自由よりも不自由を原則としている。なれば、不自由の度合いが社会における私たちの尺度に適合するかしないか、すなわち、自由と不自由の折り合いの付け方が私たちの極めて重要な認識課題ということになるであろう。

人の価値観は、基本的にその人の認識に基づく。認識のカオスから知識と経験とを寄せ集めて創り上げたものが価値観である。価値観には自由度がある。比喩的にいえば、無限で不特定の形状があり、つまり程度性がある。自由の概念は価値観に依拠しており、自己本位を貫けば「何でもあり」ということもあるし、他者への思いやり深く同調意識が高い人の場合は自

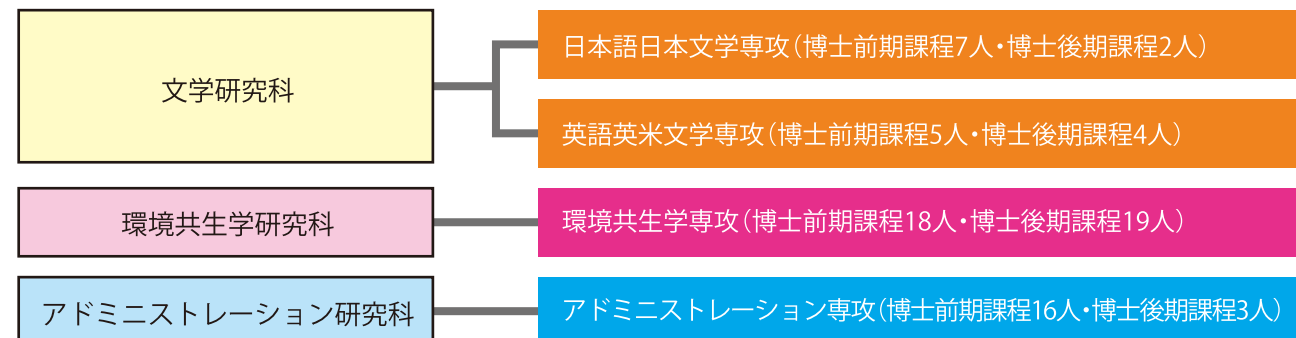
制的で規範的なものとなることもある。自由の程度に意識の幅があるなか、社会の美徳が是とするものは自明である。「何でもあり」で「自由」を語ることはできない。いわゆるヘイト・スピーチを「表現の自由」で片づけることができないのは悪意があるからである。悪意のあるものは、映画だろうが展示物だろうが、「表現の自由」の名に値しない。人が他者とともに築く社会のなかでは、当然のように協調的な精神が尊ばれなくてはならない。社会の美徳として自由は悪意を含むべきではない。その意味でも、自由は不自由のなかに存在する。

夏目漱石は「私の個人主義」という演説のなかで、個人の幸福の基礎となるべき個人主義が個人の自由に基づくとしながらも、各人の享有する自由は国家の安定に左右されると述べた。国の平和が保たれなければ自由に基づく個人主義は制限されるという考えは、かつて通った道ではないが、国家による全体主義に利用される論理性を持つ。しかしながら、現実的で合理的なシンプルさである。確かに、社会秩序が混乱した世界で「自由」の精神は力を持ちにくい。漱石の言説は、自由であるに大切なのは平和を希求することで個人を尊重する精神や態度を育むことである、という明快な方程式なのではないか。

熊本女子大から熊本県立大学へ移行し、総合管理学部が設置された平成6年4月からさかのぼること1年前。熊本県立大学の文学部に大学院文学研究科修士課程が設置されました。そこから博士課程(現:博士後期課程)まで徐々に整備が行われ、現在では文学研究科、環境共生学研究科、アドミニストレーション研究科の3研究科体制となりました。令和2年度末現在で本学大学院を修了した院生は834名を数えます。

今回の春秋彩では、学部教育をさらに専門教育へと深め、研究者を含む高度専門職業人の養成をはかる大学院を特集します。

特集 熊本県立大学の 大学院



※カッコ内は現在の所属院生数

現役院生インタビュー



大学院進学は、好きなことをとことん追求できるチャンス！

環境共生学研究所
博士前期課程2年
中村 佳甫さん

○研究テーマはどのようなものですか

食習慣のあり方をテーマに研究を行なっています。最近では、糖質制限ダイエットなど様々な食事の取り方があると思いますが、健康面(血糖値、インスリン)を考慮すると、どのような食事のバランスが良いのかについて研究を進めています。

○大学院に入学しようとしたきっかけは どういったことでしょうか

大学の4年間では学び足りず、研究を通して知識を深めたいと思い、大学院進学を決めました。私は管理栄養士養成課程を卒業しているため、食と健康がどのように関わっているのか、より専門的に学ぶことができることも魅力でした。

○大学と大学院で違うことはありますか

大学の時よりも、研究を中心に大学院では自分で考えることや、発信できる機会が多いことが違いだと思います。講義内容についても、座学でただ聞くだけでなく、自分で調べた(考えた)内容について発表する機会が多いと感じています。

○大学院で楽しかったこと良かったことは ありますか

研究をしたいと思い大学院に進学したため、思う存分研究ができ良かったと思っています。また、研究室に所属していることで、学部生の卒業研究などにも携わることができ、自身の知見を拡げる機会となり良かったと思います。

○大学院での現在の生活はどのようなものですか

大学卒業後、昨年1年間は大学院に通常どおり通っていましたが、現在は仕事(大分県庁)をしながら学生を続けています。勤務地が大分県であるため、授業はリモートで受講し、学位取得に向けて取り組んでいます。

○進学する後輩に向けてのメッセージ

大学院への進学は、自分が取り組みたいことができる一番のチャンスだと思います。この機会を逃さず、好きなことをとことん追求し、充実した学生生活となるよう頑張ってください。

修了生インタビュー



大学院での学びを通して、「唯一無二の自分」に出会う

2020年9月
熊本県立大学大学院文学研究科
博士後期課程修了

2021年現職:杏林大学
外国語学部英語学科 講師

三牧 史奈さん

私はこれまで異文化に触れることに対して強い関心を抱いてきました。異文化理解を深めるために実用的な英語能力を高めようと努力してきましたが、英語学習は自分自身が未知の世界へと進出できる可能性を感じさせてくれるものでした。大学卒業後も英語能力を伸ばし続け、異文化に触れる機会をたくさん得られる職業に就き、自分の英語能力を更に活かしていきたいという漠然とした夢を持っていた私は、迷わず本学の大学院に進学しました。

大学院博士後期課程では、英語で博士論文を執筆することに尽力しました。博士論文完成までの5年間には大変な苦労がありましたが、院生生活を送る中で学会での研究発表を経験したり、学会誌に学術論文を投稿したりと、専門的知識や技術を高める経験をたくさん積むことができました。また、研究業績を積むことのみならず、自分と同じ研究分野に携わる研究者の方々と数多くの貴重な出会いもありました。私は大学院での研究

生活の中で、学問を通じて世界とつながる感覚を得ることができ、大変充実した時を過ごすことができましたと感じています。

大学院博士後期課程を修了した後、私は大学で学生を指導する立場となりました。専門はアメリカ文学ですが、アメリカ文学作品を読むことを通して、より多くの学生に知的好奇心を持ってもらえるように日々試行錯誤で授業に取り組んでいます。

大学院での学びを通して、自分らしいユニークな発想や自分だけが持つ視点、そして、自分にはできないインパクトのある伝え方などを発見することができました。このように、今までずっと気がつくことのなかった自分の個性にハッと瞬間がたくさんあります。大学院で学ぶ皆さんには、自分と他者とを比較し、そこに様々な違いがあることに気付くことを通して、「唯一無二の自分」に出会ってほしいと思います。

多良木町・一般財団法人たらぎまちづくり推進機構と包括協定を締結しました

令和3年7月7日、CPDホールにおいて、熊本県立大学は、多良木町及び一般財団法人たらぎまちづくり推進機構と、産業振興・人材育成・地方創生など様々な分野において相互に協力することを目的に包括協定を締結しました。本学において、3者による包括協定の締結は初めてとなります。

調印式には、本学より半藤英明学長、多良木町より吉瀬浩一郎

町長、一般財団法人たらぎまちづくり推進機構より明石照久代表理事が出席し、それぞれの長所を活かし、積極的に連携していくことを確認しました。

今回の締結を機に、多良木町の課題解決や地域活性化、そして本学の発展に向けて、3者で協力し、様々な取り組みを進めてまいります。



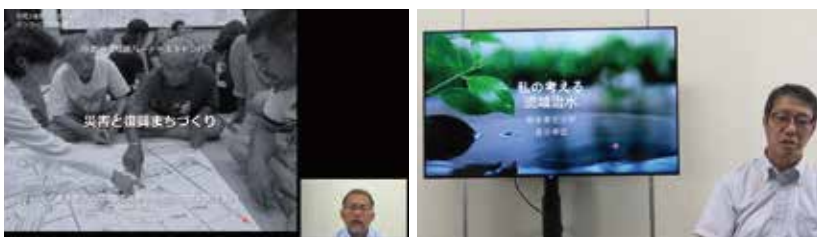
「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」で令和2年7月豪雨被災地の復興活動を支援

令和2年7月豪雨による災害からの創造的復興をめざし、球磨川流域圏の文化、歴史、環境をテーマにした無料オンライン公開講座「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」を開催しました。

講師4名による4コマの講座で、定員200名に達するご応募をいただきました。質問・感想も多く寄せられ、応募締切り後

も受講問い合わせが多かったことから、同じ内容ではありますが2次募集も行い大変好評をいただきました。

今後もこうした講座を通し、球磨川流域圏の地域としての魅力を発信することで、多くの方に本地域に対する理解を深めていただき、復興活動を支援していきます。



講師名	講義名
島谷 幸宏氏	私が考える流域治水とは～流域治水って何？～
柴田 祐氏	災害と復興まちづくり
木崎 康弘氏	球磨川流域圏の歴史と文化
森山 学氏	球磨川の暮らしに育まれた八代市坂本町の歴史的建造物



食を通じたヘルスプロモーション

環境共生学部 実践栄養教育学研究室の坂本達昭です。行っている研究をご紹介します。

1)小学生の料理スキルと自己肯定感を高める調理体験プログラムの検討

自己肯定感とは、自分の価値や存在を肯定できる感情を意味する言葉です。自己肯定感が高ければ、人生における課題を建設的に解決できる可能性が高いのに対して、自己肯定感の低さは、思春期の飲酒や喫煙、成人期以降のうつ病のリスクファクターとなることが知られています。最近では、テニス選手の大坂なおみさんが、SNSを通じて自己肯定感が低いことを明かし、自己肯定感の大切さを発信しています。

料理と自己肯定感？あまり関連がなさそうです。この2つを組み合わせた理由は、①調理経験により、美味しい料理を作る「成功体験」を積み重ねられること。②作った料理を家族に食べてもらうことにより、褒めてもらえたり、喜んでもらえたりすることで、人の役に立っているという確かな「自己肯定感」を育めると考えたからです。

昨年度からは、「新しい生活様式」にあわせ、非対面式のプログラムを始めました。この研究では、小学生が自宅で調理動画を視聴し、調理にチャレンジします。調理動画は、研究室の学生が撮影・編集しています。努力家の大学院生、チームワーク抜群の4年生のおかげで研究が実施できています。2021年3月には、大学院生がこの研究を日本栄養改善学会九州支部大会にて発表し、優秀発表賞を受賞することができました。

2)児童福祉施設における栄養管理のための研究

保育所をはじめとする児童福祉施設の給食は、幼児期の成長に必要な栄養素の確保に貢献しています。しかし、日々の給食により、どれだけの栄養素等が提供されているかについてのエビデンスは十分ではありません。そこで本研究は、児童福祉施設の給食の栄養管理のために、給食の提供基準を新たに検討することを目的としています。2020年に、全国8地区の研究協力者と、各地区の3～5歳児の食事状況(4日間の食事記録)、生活状況を調査しました。この結果は、主として厚生労働省による保育所における給食摂取基準の策定への提言、食事摂取基準の次期改定時の基礎資料となる予定です。

このように、食を通じたヘルスプロモーションに関わる研究を進めています。今後も、研究室の学生とともに、面白くて、役に立つ研究を進められるようにしたいと思います。

プロフィール

大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程修了 博士(生活科学)
平成29年より本学勤務



画像中央が坂本准教授

研究活動紹介

環境共生学部 実践栄養教育学研究室
准教授 坂本達昭



食事時のスマホ利用と食事の楽しさについての調査についての新聞記事(左/令和元年9月17日熊本日日新聞掲載、右/平成30年4月16日毎日新聞掲載)



さまざまな国の学生との交流が、
県立大生のグローバルな視点を育みます

INTERNATIONAL EXCHANGE
国際交流

**Café Eventでインドネシア人留学生が
母国を紹介**



Global Loungeでは、留学生との交流のきっかけを作ることを目的として、毎月カフェイベントを開催しています。令和3年7月21日には、水銀研究留学生として本学の博士後期課程に在籍中のSyafranさんが母国インドネシアを紹介してくれました。

民族衣装のバティックシャツを着たSyafranさんは、「Unity in Diversity」を国家的モットーとするインドネシアの文化の多様性について、衣、食、住を軸にわかりやすく解説してくれました。後半は、参加者全員が伝統楽器アンクルンで合奏したり、お土産にインドネシアの伝統的な発酵食品テンペが振舞われたりと、大いに盛り上がりました。

**Ek Sonn Chanカンボジア国大臣による
特別講義**



令和3年5月25日、もやいすとグローバル育成プログラム科目「Kumamoto Studies」において、カンボジアのEk Sonn Chan大臣が「プノンペンの奇跡と水道整備までの道のり」をテーマにオンラインで特別講義を行われ、本学履修生のほか、他大学の学生、県内の中高生及び教員130名以上を含む計281名が聴講しました。

大臣は、水道管の不法接続や盗水が横行し、水道会社が腐敗と汚職の温床だった時代から、プノンペン市水道会社の総裁として、僅か15年で市民に安全な水を供給し、日本並みの優れたサービスを提供するまでに成長させた「プノンペンの奇跡」について語りました。

**「トビタテ!留学JAPAN」の
船橋氏による特別講義**



令和3年7月20日、「官民協働海外留学支援制度トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」のプログラムディレクターである船橋氏による「トビタテへの想いとこれから求められる人材」をテーマとした特別講義がオンラインで行われ、高大連携事業の一環として県内の高校生らも参加し、計202名が聴講しました。

同氏は、本学学生による留学体験談の発表を受け、海外で様々な価値観や生き方を知る「越境体験」の大切さを強調し、留学に限らずいろいろなことにチャレンジしてほしい、と学生達にエールを送りました。

地場企業が留学生へ食糧支援



令和3年6月、西田精麦株式会社様より、本学留学生に対し「九州大麦グラノーラ」のご寄付をいただきました。この事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で生活に困窮している留学生の救済と、商流に乗らない製品のフードロス防止というSDGsの観点から実施されたものです。

また、今年3月には大学コンソーシアム熊本を通じて、株式会社えがが様、日本マクドナルド熊本県フランチャイジーオーナー会様からのご寄付をいただいております。留学生からは「支援をしていただけてありがたい」と企業様の温かいお心遣いに感謝の意を表しました。

大学の動き

**水泳部が九州学生選手権水泳競技大会・九州地区国公立大学選手権水泳競技大会で
入賞を果たしました!**

大会は令和3年7月9日から11日に鹿児島県で、感染拡大予防ガイドラインに基づき実施されました。

水泳部は、平成30年5月に同好会を設立し令和元年12月にサークルに昇格した新しいサークルですが、日頃の練習の成果を十分に発揮し今回の結果に結びつけることができました。「今回は第81回九州学生選手権水泳競技大会 兼 第68回九州地区国公立大学選手権水泳競技大会で2名が入賞することができました。コロナ禍で活動に制限があり練習も十分にできない状況ですが、今後も様々な大会で良い結果を残せるように活動を行っていきたいと思います。このような状況下で大会開催にご尽力頂いた関係者の皆様に心より感謝申し上げます」。



**日本乳酸菌学会大会
若手優秀発表賞を受賞しました!**

本学環境共生学研究所 食品バイオ工学研究室(松崎研究室) 博士後期課程3年 河原あいさんが、日本乳酸菌学会2021年度大会において、「若手優秀発表賞」を受賞しました。

乳酸菌学会は企業の方の発表も多く、乳酸菌を研究対象とする者にとって、学生の優秀発表賞は大変価値あるものと言えます。



受賞課題:「Lactobacillus plantarum PUK6の多成分バクテリオシン生成関連遺伝子の機能解析」

<受賞にあたってのコメント>

この度は、日本乳酸菌学会にて若手優秀発表賞を受賞することができ、大変嬉しく思います。このような賞を頂いたのも、ご指導頂いております松崎教授をはじめ、多くの先生方のおかげです。また、研究にご協力していただいた共同研究者の方々、研究を支えてくれる研究室の皆さんにも感謝しております。今回の受賞を励みとし、これからより一層研究と勉学に励み、社会に還元できるよう努めたいと思います。

もぐ丸かんたん料理コンテストを開催しました!

コロナ禍で家で過ごす時間が長くなり、自炊をする機会が多くなりました。しかし、レシピのレパートリーが少ないために悩みを抱えているという声があり、熊本県立大学の学生を対象に、食育推進室とたべラボが主体となり、SNS (Twitter, Instagram) を活用した料理コンテストを開催しました!

- 15分以内のできる料理
- 野菜が入ったもの
- スーパー等で手に入る食材を使用したもの

を条件にSNSで募集し、応募作品は全部で25作品となりました。



受賞作品は、TwitterとInstagramで #もぐ丸かんたん料理コンテスト と検索すると出てきます。どれも美味しそうな料理ばかりですのでぜひチェックしてみてくださいね。

学生への生活支援事業として食品・日用品等の無償配布を行いました

新型コロナウイルス感染症の継続的な影響により、アルバイト収入等が減少するなどにより生活が困窮している本学学生の状況を鑑み、生活支援の一つとして食品・日用品等の無償配布を行いました。

第1回配布は6月30日から7月2日の3日間

第2回配布は8月4日から8月6日の3日間

第3回配布は10月6日から10月8日の3日間

学生からは「たくさんの物資をもらえてうれしいです。ありがとうございます」など感謝の言葉が寄せられました。

また9月までの期間限定でしたが「県大フードドライブ」「学生への生活支援事業基金」を開設し、コロナ禍で生活が困窮する学生の生活支援を行いました。



ご協力いただいた皆様

熊本県立大学同窓会紫苑会、熊本県立大学後援会
熊本市健康福祉政策課、熊本市男女共同参画課
フードバンク熊本、なごみの里協議会(和水町)
福島農園(菊陽町)、喜多川農園(八代市)
肥後銀行、ローソン、熊本製粉、JA熊本うき

KAMA FARM(葦北郡芦北町)
vege-table(ベジタブル)、SalVage(後援会自主研究グループ)
もやいすとスーパー(山都町)、
総合管理学部学生ボランティア
熊本県立大学学生保護者・卒業生・教職員の皆さん

熊本大学と包括的連携協定を締結しました!

令和3年7月1日、本学は、熊本大学と包括的連携協定を締結しました。

この協定は、両大学における教育・研究の一層の充実並びに地域社会の発展及び地域を支える人材の育成に寄与することを目的としています。

調印式を熊本大学で開催し、本学の半藤英明学長と熊本大学の小川久雄学長が協定書に署名しました。

今後は、これまでに両大学が培ってきた関係をより一層深化させ、教育・研究両面での個別具体的な連携を図っていくこととしています。



総合管理学部・飯村研究室の学生らが2020年度JSiSE学生研究発表会「優秀発表賞」を受賞

総合管理学部情報部門飯村研究室(知能情報学研究室)の学生らが、今年3月に開催された「2020年度 教育システム情報学会(JSiSE)学生研究発表会」において研究発表を行い、「優秀発表賞」を受賞しました。本学会は、教育・学習のためのシステムに関する学術的情報の交換と研究・開発・利用を支援し、教育・学習と産業の発展に寄与することを目的としています。

研究題目

「地域創生を指向した阿蘇観光活性化アプリに関する検討」

研究概要

本研究では、熊本県阿蘇市の地域創生を指向した観光活性化アプリを開発しました。阿蘇市は全国的にも知名度の高い観光地ですが、具体的な観光や食のイメージについては十分に発信できていないことが報告されています。そこで、阿蘇市の更なる魅力の発信を目的とし、アプリには認知度向上の余地がある観光地や店舗の情報を中心に掲載しました。また、完成したアプリを用いてアプリ利用者を対象にアンケート調査を実施し、主観的評価を行いました。その結果、本アプリが阿蘇市の観光地や店舗の認知度向上の一助になり得ることを確認しました。

研究メンバー

古田とわ、奥村花菜、後藤雅弥、城龍太郎、平野夏実、飯村伊智郎



就職活動をはじめ、多彩に学生をサポート

後援会だより

《学生活動支援事業》

- サークル活動費助成、白亜祭・PUKリンピック開催経費助成、体育委員会主催サマーキャンプバス代助成、全国大会等出場助成 他
- 学生用カラーコピー機の設置、コピーカード配布・販売、食育支援(学食メニュー充実)、インフルエンザ予防接種費用助成 他
- 学生のリクエストに応じ図書を購入し図書館へ配置 他

《国際交流推進事業》

- 海外留学助成、留学対策講座助成、留学生による学生等向け語学講座開講支援 留学生危機管理サービス加入助成 他

《教育研究推進事業・その他》

- 共同自主研究への助成、現地学習バス借上助成、インターゼミナール大会等への参加助成 他
- 卒業式のガウン貸与、記念品贈呈 他

※新入生へは、本学合格通知の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしております。まだ未入会の方は、充実した学生生活を送るためにも後援会事業をご理解いただき、是非ご加入ください。年次途中であっても随時入会を受け付けております。

資格取得助成金を増額3,000円→5,000円!!

新型コロナウイルス感染拡大で、資格を取得する人が増えているそうです。背景には在宅時間の増加と景気悪化懸念により膨らむ雇用不安であるとのこと。

そこで将来仕事に役立ち、収入増につながる資格取得を目指す学生を後押しするために、後援会では資格取得助成金を増額しました。是非ご活用ください。



《就職対策事業》

- 就職対策講座(公務員試験対策、就職活動実践等)の助成、資格取得及び講座受講等助成 他
- 就職セミナー・各学部による就職支援事業・在学生就職アドバイザー配置支援、TOEIC® IP学内試験への実施支援、福岡地区合同企業説明会参加助成、就職・進学写真代助成、保護者用就職ガイドブック作成配付

生き生き元気種

このコーナーでは地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。



大学内で防災啓発に取り組むメンバー

県大防災プロジェクト

豊嶋祥太(総合管理学部総合管理学科3年)

防災意識の向上を目指して活動中!

私たち「県大防災プロジェクト」は、ボランティアステーションに所属している学生団体です。平成28年4月の熊本地震をきっかけに発足しました。主に、熊本県内で、防災のゲームなどを使用しながら、楽しく防災について学び、防災意識の向上を目指して活動しています。具体的な活動内容としては、熊本県内で行われる防災イベントの手伝い、学内で行う防災イベントの運営などです。下通で行われた防災イベントや依頼のあった小・中学校、高校などで、ゲームを使用して防災について考えてもらう活動を行ってきました。現在は、新型コロナウイルスの影響により学外でのイベントを行うことが難しいため、学内での活動に力を入れています。メンバー数は20人前後とあまり多くはありませんが、先輩、後輩、学部に関係なく、お互いに協力しながら活動しています。参加可能な人が、自由に活動に参加するようにしており、決まった活動日はありません。ただ、定期的な活動として、月に1回、ミーティングを行い、活動報告や、メンバー間での情報共有を行っています。

「防災食のイメージが変わった」、「防災食のパンを用意してみたい」という感想をいただきました。

現在、新型コロナウイルスの影響により様々な場面で活動の制限を受けてはいますが、できるだけ多くの方が防災について考えるきっかけを作れるような、また、防災への意識を向上してもらえるような活動を続けていきます。



好評だった防災食の配布



ゲームで楽しく防災について考えます

最近の活動では、人吉球磨地方に甚大な被害をもたらした令和2年7月豪雨から1年という節目を迎えるにあたって、災害に対する備えについて考えるきっかけを作れたらと考え、学内で防災グッズの展示や防災食の配布を行いました。その際、熊本の企業である野々村ポンプ株式会社様(熊本市中央区神水)から、展示品や配布する防災食を提供いただき、展示を行う際には、防災グッズや防災食についてのお話を伺いました。

防災食の配布は、事前にあまり告知をしていませんでしたが、たくさんの方が来てくださいました。実際に防災食を食べた方が

お一冊

西国立志編

サミュエル・スマイルズ著、中村正直訳

出版社: 講談社学術文庫 出版年: 1981年
ISBN-13: 978-4061585270

「自分で考え、行動する」ということは、当たり前のように言われることですが、実社会の中では、ままならないこともあるのではないのでしょうか。独立不羈(どくりつふき)の精神とは程遠く、制約の多い営みのなかで、次第に自律性を失っていくこともあるかもしれません。そんな中、個々の人間が本来どんなポテンシャルを持っているのかを教えてください、この本です。

19世紀のイギリスでベストセラーとなったこの本は、「自分で考え、行動し」成し遂げた人々の伝記がコンパクトに集められたものです。原題は、Self-Helpとなっており、第一篇の「天はみずから助くるものを助く」という言葉の通り、自分を信じて道を進むことの大事さが強調されています。今回紹介する訳本の題名は、『西国立志編』となっています。明治期に中村正直(敬宇)によって翻訳され、日本でもベストセラーとなったときのものの復刻版で、味わい深い日本語で読むことができます(読みにくい方は、PHP新書より現代語訳が出ていますので、そちらをお勧めします)。明治期の立国の立役者も熟読していたであろう本書を読んで、活力を取り戻しませんか。



文学部 英語英米文学科
教授

虹林 慶

熊本県立大学未来基金への御協力に心より御礼申し上げます。

未来基金寄附者御芳名(令和2年度実績)

個人: 9件、法人・団体等: 3件、古本募金: 17件

- 200万円 熊本県立大学同窓会紫苑会(令和2年度分として)
- 50万円 一般財団法人未来会(熊本県立大学奨学金の充実として)
- 30万円 熊本県立大学同窓会紫苑会(新型コロナ対策として)
- 10万円 加藤 友信、河津 延雄、白石 隆、本松 賢、HAU CAROLINE SY
- お名前のみ 黒木 誉之、花村 陽子
- 古本募金 江崎 一郎(2件)、豊永 喜代美、吉村 信明(2件)
古本回収ボックス(4件)

※お名前の掲載を希望されなかった方 個人2件、古本募金8件

(※寄附金額別、五十音順、敬称略)

未来基金活用実績(令和2年度実績)

- 西部電気工業奨学金 2,880,000円
- 同窓会紫苑会奨学金 2,300,000円
- 新型コロナウイルス
感染防止対策寄附金 273,600円
(遠隔授業に伴う学生貸与
のタブレット端末購入)
- 海外留学
支 援 小辻梅子奨学金 260,690円

基金創設(平成21年9月)以来の寄附金総額は、**136,990,823円**となりました。

(※受取利息は含まない。)



蓑茂壽太郎初代理事長への熊本県立大学 名誉フェロー称号授与式を行いました

令和3年4月、本学の初代理事長である蓑茂壽太郎氏に対し、「熊本県立大学名誉フェロー」の称号を授与しました。この称号は、本学の運営及び経営に顕著な貢献があった方等を対象に授与することとしており、本学において初の授与となりました。